

令和7年12月9日

太田市議会議長

星野 一広 様

市民ファーストの会 代表 大川 敬道 (印)

会派行政視察報告書

- 1 期日 令和7年10月9日(木)から10月10日(金)までの2日間
- 2 視察地 栃木県宇都宮市(第87回 全国都市問題会議)
- 3 視察事項 (1) 栃木県宇都宮市
① 第87回 全国都市問題会議
- 4 参加者 3名
大川 敬道 神谷 大輔 山水めぐみ
- 5 視察概要 別紙のとおり

全国都市問題会議

〈10月9日（木）〉

○基調講演

「人口減収・成熟社会のデザイン」

京都大学名誉教授 広井 良典 氏

○主報告

「人口減少社会に対応する都市の構造改革

～100年先も発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成～

栃木県宇都宮市長 佐藤 栄一 氏

○一般報告

「縮充」発想による公共施設マネジメント

東洋大学国際PPP研究所シニアリサーチパートナー 南 学 氏

○一般報告

「都市縮小時代の持続可能なまちづくり

～人がつどい未来に躍動する世界都市・高松～

香川県高松市長 大西 秀人 氏

○一般報告

「次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり」

早稲田大学理工学部教授 森本 章倫 氏

〈10月10日（金）〉

パネルディスカッション

テーマ：成熟社会の都市のかたち～コンパクトで持続可能なまちづくり～

コーディネーター：埼玉大学大学院人文社会科学部教授 内田 奈芳美 氏

パネリスト：(株)みちのり HD 代表取締役グループ CEO

(兼) 関東自動車(株)代表取締役社長 吉田 元 氏

まちなか広場研究所 主宰 山下 裕子 氏

北海道室蘭市長 青山 剛 氏

鳥取府米子市長 伊木 隆司 氏

(1) 所感

まず、京都大学名誉教授・広井良典氏の基調講演において、まちづくりを進める上で機知に富んだ視点が示された。その講演において特筆される点を二つ掲げる。

第一点は、地方の可能性についてである。近年、若い世代のローカル志向が顕著となり、愛郷心が育まれている。その結果、「ないものねだり」から「あるものさがし」へと志向が変化しているとの視点が示された。

第二点は、デジタルの「先」の展望についてである。2050年の日本は持続可能かという問いに対し、AIを活用して導き出された結果として、持続可能なシナリオは「包括的分散型社会」であるとの話があった。その具体像として、ローカルな経済循環の機能を備え、コミュニティとまちづくりを重視する持続的な福祉社会が示された。本質的に導き出されるのは、「コミュニティ空間」を重視するウェルビーイング（幸福）な都市像であり、社会や価値観の変化を捉えたまちづくりが、人口減少・成熟社会の方向性として提示された。

その後、宇都宮市長・佐藤栄一氏の主報告においては、先の基調講演で示された地域社会の方向性を実践する具体例として、説得力ある内容が報告された。令和5年8月に開業したライトラインについて、これまでの平坦ではなかった道のが説明され、公共交通は福祉の分野に属するとの認識のもと、採算性の次元からの脱却を強く推進したことが語られた。これにより「クルマがないと生活できないまち」からの脱却が進み、市民生活に変化をもたらした。具体的には、1日5,000台の交通量削減、沿線人口の10%増加、さらに不要となった駐車場用地を活用した企業の設備投資誘致など、好循環が生まれているとの報告であった。

2日目のパネルディスカッションでは、登壇者の一人である鳥取県米子市長・伊木隆司氏が「コンパクトプラスネットワーク」という発想を取り入れ、令和5年に「米子市地域公共交通計画」を策定したことが紹介された。利便性の高い持続可能な公共交通手段を目指し、さらに「歩く」ことにも着目して整備を進めているとのことであった。

一極集中から分散型社会への社会形成の変化を基本として捉え、来るべき「デジタルの先」を見据え、未来への投資の具体性を導き出す必要性が一連の会議で示された。これらを踏まえ、「拠点づくり」のあり方について、本市の推進方向の検証に活かしていきたいと考える。

